

おうとうしょくほぞんえん 奥羽増殖保存園を見学しませんか

国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター東北育種場では、美しい森林をつくり次世代に引き継いでいくために、気象害や病虫害に強く成長の良い品種の開発・普及に取り組んでいます。

ここ奥羽増殖保存園では、東北の日本海側の重い雪に耐えて真っ直ぐに成長するスギをはじめ、マツ枯れに強いマツや花粉の少ないスギなどの新品种を開発するとともに、シラハタマツなどの貴重な遺伝資源を保存しています。

< 保存園の“見どころ”💡 ベスト8 >

1. 雪国の山づくりは品種選びから



樹木は生えている場所の気候に順応して成長するので、同じ樹木でも場所によって様々な違いが見られます。写真の左の木は、雪の少ない関西地方のスギで、右の木は多雪地域のスギです。

雪の多い山形県に雪の少ない産地のスギを植えると、雪の力で幹が大きく曲がってしまい木材として使えません。このことから、雪国では雪に強い品種を植えないといけなことが一目でわかります。

2. 1本から数倍に。 さし木によるクローンの増殖



さし木は、増やしたい樹木から穂を取り、専用の土に挿し、切り口から発根させ、新たな樹木を作り出す方法です。

さし木で増やした樹木はクローンと呼ばれ、1本の樹木から何本もクローンを作り、色々な試験などに利用しています。

3. 雪に強い新品种をより速く供給。ミニチュア採種園



採種園は、優れた性能を持つ品種を一か所に植え、その中で花粉が自由に飛ぶことで優れた品種同士を掛け合わせて、より性能の高い種子を生産できるように設計しています。

ミニチュア採種園は、植栽から4年と普通の採種園よりも短期間で種子の生産が可能なので、日本海側で根曲がりの少ない、雪国対応のスギを素早く供給することができるようになりました。

4. 次世代の秋田スギを開発するために

秋田天然スギは、日本三大美林に数えられ、優れた特性を持っています。

ここは、より成長の良い品種を作るため、秋田スギ同士を交配した種を使った試験採種林です。

ここで採った種子から苗木を育て、成長量の調査をしたり、ここから採った穂でミニチュア採種園を作るなど様々な方法で、より性能の高い次世代のスギを開発していきます。



5. 現代人の天敵「花粉症」をおこさないスギ



写真上: 出荷を待つ花粉の少ないスギ苗木

写真左: 大量に出たスギの花粉

今、多くの方がスギ花粉症に苦しんでいます。

この対策として、これまでに開発した花粉の少ないスギの普及に努めています。

近年、花粉を作らない(花粉症をおこさない)スギがいくつか発見され、この無花粉に関連する遺伝子の存在も明らかにされています。

そこで、あらたな無花粉スギや無花粉遺伝子を発見するために品種同士の掛け合わせやその苗木の花粉の調べるなど、様々な試験研究に取り組んでいます。

6. マツ枯れに強いマツを探して



東北地方の日本海側では、海岸林をはじめ、マツノザイセンチュウによるマツ枯れが深刻な問題となっています。

当園ではマツノザイセンチュウに強いマツを開発するため、被害地から選抜した候補木の種子から苗木を育てています。

育てた苗木は、東北育種場でマツノザイセンチュウが接種され、抵抗力があるかどうかの検定が行われます。

7. 東北の美人松に逢える



シラハタマツは、山形県置賜地方のアカマツで、幹が真っ直ぐに伸び成長が良く良い材木が取れます。

樹皮の色が淡褐色でとても美しいことから、美しい肌「シラハタ」と呼ばれたのが、名前の由来になったとも言われています。

8. 四季折々の樹木が つくる桃源郷

保存園には、多くの皆さんに木を知ってもらい、身近に感じてもらえるように色々な樹種を植えてあります。

ユリノキやボダイジュなど、おもしろい形の葉や種をつける木を楽しむことができます。

また、サクラもシダレザクラや十月サクラなど様々な種類があります。春には森林総合研究所のホームページから開花状況を見ることができます。



連絡先等のご案内

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 林木育種センター
東北育種場 奥羽増殖保存園

住所: 山形県東根市
神町南 2 丁目 1-1
電話: 0237-47-0219



左の写真は
奥羽増殖保存園
の事務所です。

ホームページはこちら <http://touiku.job.affrc.go.jp/>